

小紋 一重太鼓の部（自装）

競技要綱

〈競技の前準備〉

- 1 帯は、てさを上にして屏風だたみにし、必要な小物類を準備する。
- 2 足袋をはき、和装肌着を着用、補正が必要な場合は整えた状態で待機する。

〈競技方法〉

- 1 監視委員の指示の下、控室にて長襦袢までの着付け終了後、着物をはおり、衿留め迄を20分間で行う。
- 2 着物の裾を上げて合わせ、腰紐を仮に締める。(移動のため)
- 3 競技位置で腰紐をとり、裾を下ろして準備する。
- 4 競技会場にて着付けと帯結びを15分間で行う。

〈競技規定及び禁止事項〉 ※違反者は、減点もしくは失格となります

- 1 選手は、専修学校や着付教室で着付けを学んでいる方から、着付業務に従事する方まで幅広く対象とする。
(但し、地区コンテスト大会等で代表選考された者を優先する)
- 2 自装 小紋の部 使用する衣裳、下着、小物類一式、草履は各自持参のこと。
着物 ●小紋(腰上げなし・AYブレタ着物可) 二部式セパレートタイプ不可 重ね半衿不可
帯 ●名古屋帯(一重太鼓)・・・お太鼓枕使用(作り帯・二部式帯は不可)
・帯の巻き方 身体に二巻き、後ろ又は前で一重太鼓を作る方法 仮紐使用又は結ぶ方法
・下着・・・一般的な和装肌着・補正着
・小物類・紐(モスリン可)・仮紐・衿留め(クリップ)・帯板 ・伊達じめ又は伊達巻き使用可(ゴム製品以外)
・おはしよりに半紙及びパネロンを使用してもよい。
- 3 選手同士での用具の貸し借りはしない。また、用具等の忘れ物があっても大会本部から貸し出しは一切しない。
- 4 ・半衿は無地(刺繍、縮緬を除く) ・加工衿はアイコー衿に限り使用可
・衿とじ 広衿の場合は衿肩あき～衿肩あき迄とじて良い。
- 5 必要以上に完成された補正用品及び着物ベルトの使用は不可とする。但し、タオル、コットン等自分で組み合わせてとじたものは可
- 6 帯に形付けをしたり、帯や着物に糸やその他による印、固定は一切認めない。
- 7 助手の使用は一切認めない。

〈当日の注意事項〉

- 1 当日の行動は、監視員の指示に従うこと。
 - 2 競技中、選手同士又は観客と会話等してはならない。
 - 3 競技中、他の選手に迷惑をかける言動をしたり、監視委員の指示に従わない場合は、退場を命じることがある。
 - 4 競技終了後、選手は作品に一切触れてはならない。
- ※貴重品の紛失・盗難につきましては、主催者側では責任を負いかねますので、各自充分にご注意下さい。
- 審査事項 大会運営規則に基づき委嘱された審査委員が、同規則に定められた「職務要綱」に基づき、審査業務を行う。
- 監視事項 大会運営規則に基づき委嘱された監視委員が、同規則に定められた「職務要綱」に基づき、監視業務を行う。
- 採点精算 大会運営規則に定められた「職務要綱」に記載する。
- 順位決定 順位の設定は審査委員の採点の合計点に基づき、決定する。(但し、同点の場合は運営規則に基づき決定する)
- 表彰 入賞者の数については、出場選手の数に応じて大会委員長が決定する。